

2005/06 冬季における降雪分布の特徴

Characteristics of the snowfall distribution of the 2005/06 winter in Japan

中井 専人 [1]; 熊倉 俊郎 [2]; 岩本 勉之 [1]

Sento Nakai[1]; Toshiro Kumakura[2]; Katsushi Iwamoto[1]

[1] 防災科研・雪氷; [2] 長岡技大・環境建設

[1] Snow and Ice Research Center, NIED; [2] Civil and Environ., Nagaoka Univ. of Tech.

<http://www.bosai.go.jp/seppyu/>

2005/06 冬季は12月から1月前半にかけて寒気が断続的に南下し、広範囲にわたって多量の降積雪が観測された。これに伴い顕著な雪氷災害が発生し、全国的には20年ぶりの豪雪年となった。

年々の変動を考慮して2005/06冬季最深積雪を規格化し、その分布を調査した。その結果、いくつかの地域に集中した多雪が見られるとともに、山形・宮城両県以南においては内陸部で多くなる傾向が見られた。平均値より顕著に多い積雪のあった地域において、雪氷災害が多く発生していた。

10分間隔の気象庁全国合成レーダーデータを使用し、全国の主として日本海側積雪地域の降雪分布を解析した。解析は北海道、東北、北信越および中国地方に分けて行い、期間は2005年12月から2006年2月までとした。解析期間中は4地方のいずれにおいても降水系が入れ替わりながら継続的に出現した。特に線状降雪雲は期間を通して多く見られた。寒気の南下の著しかった期間には渦状降雪雲が多く見られ、その後これと入れ替わるように前線等による降雪の比率が増加した。解析期間全体について積算した降雪は特定の地域に集中する分布を示した。北信越地方においては、降雪分布に最も寄与したのは線状降雪雲であり、それによる降水は山沿いから内陸地域に集中する分布を示した。渦状降雪雲及び前線などによる降雪は、線状降雪雲に比べて平地周辺の降雪に多く寄与していた。